

論

文

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～9ページに記載されています。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

あなたは、「自立」って何だと思いますか？

大学生にこう質問すると、「自分で金を稼げるようになること」「他人に依存せずに一人で生きていけること」という答えがしばしば返ってきます。そこで言われているのは、経済的自立であり、身の回りのことを一人でできるのは、身体能力の自立でもあります。

どちらも、数値化できて比較可能だ、という意味で、能力主義に親和的な自立概念です。

でも、それ以外にも、自立の考え方はあるはずです。例えば、常時他人による介助が必要な身体障害者の社会運動（自立生活運動）においては、以下の自立概念が有名です。

「他人の助けを借りて一五分で衣服を着替え、仕事に出かけられる障害者は、自分で衣類を着るのに二時間かかるために家にいるほかに障害者よりも自立している」

これは「自己決定や自己選択の自立」とも言われています。⁽¹⁾ どの服を着るかは自分で選んで決める。でも、服の着脱は身体障害ゆえに時間がかかるなら、それは他者に介助を頼んで、着替えを済ませて外に出かけたらよい。何でも自分でできなくてもよいし、選択や決定は自分がした上で、できない部分は助けてもらえばよい。そういう考え方です。

ただ、この定義は赤ちゃんとか重い認知症の人、重症心身障害者など、決めたり選ぶことが苦手だったりできなかったりする人、あるいは社会的な「仕事」ができない状態にある人には当てはまりません。では、娘が赤ちゃんだったときは、全く自立していなかったのか。そう問われると、「尊厳の自立」があると私は考えています。

認知症で何を食べたか忘れてしまっても、どうしてよいのか判断しにくくなっても、子や孫にとっては大切なおばあちゃんであり、長い人生を生きてきた〇〇さん、という（A）は、その人の中に保持されているはずです。あるいは娘は生まれ落ちた瞬間から、他者と違う彼

女の独自性に溢れていました。つまり、人は生まれてから死ぬまで、その人の存在そのものが際立っている、という意味で、「尊厳の自立」があるはずです。

この前提に立った上で、「自立とは依存先を増やすこと」というフレーズを考えてみたいと思います。これは、東京大学教員の小児科医で、脳性麻痺の当事者でもある熊谷晋一郎さんの言葉です。熊谷さんは東大医学部に入って、医者で、東大教員で、という意味では、勉強やキャリア面ではパーフェクトに自立しています。その一方、介助が必要という意味で、身体能力は自立していない、とも言えます。でも、彼は介助者を使って自己決定や自己選択をしているし、脳性麻痺として生まれてきたことに関係なく、尊厳は自立しています。

そんな熊谷さんは、「⁽²⁾依存先を増やすこと」こそ自立だと言います。子育てをしていると、これは本当に自分事として痛感します。子育てを夫婦だけではとてもできません。祖父母やママ友・パパ友、こども園や学校など、様々なネットワーク（依存先）を増やすことで、子育てがしやすくなっていきました。また、何か困ったことが起こったとき、私の場合であれば「車、Mac、合気道、キャンプ、ワイン、洋服……のことなら〇〇さんに相談すればよい」という依存先を増やしておくと、自分で調べはじめて右往左往しなくても、適切な情報をサクッと教えてもらえます。それで私はものすごく助かっているし、私の生活は確実に豊かになっています。

何でも一人でできるようになれたらいいけど、私はそんなに⁽²⁾ヨウリヨウもよくないし、子育てや仕事をしていたらそんな時間はありません。ならば、学生時代から頼れる友人・知人を増やしていった方が、結果的に生きていくのが楽になります。また、私にできることがあるなら、友人や知人から頼られたら、余裕がある範囲で応じています。それこそ、「お互いさま」だと思うのです。

「他人に依存せずに一人で生きていけること」というのは、自立のように見えて、社会的（B）に繋がりがかねないと思っています。他者に頼らず全部を一人で抱え込むこともあるからです。

「一人で生きていく」のは、心身にエネルギーがみなぎっていて、一定程度の経済的基盤があれば、他者に⁽³⁾エンリョせず済むし、自分勝手にできる、という意味で、楽でもあります。そういう意味では、自己利益の最大化、にもつながるのかもしれませんが。なるべく依存を減らしても生きていけるよう、頑張ってリスク管理をしておられる方も、いるかもしれません。

でも、新型コロナウイルスにかかる、^④ジシンやゴウウ災害の被害を受ける、事故に遭うなどは、自己管理だけでは防ぎようのないことです。そういう時には、自分の身の安全を確保した上で、他の人のためにできる事を、できる範囲でする。皆さんもそういう経験をお持ちだと思います。それは、社会的孤立とは反対の、身近な周囲からの連帯だと思いのです。

これを「面倒なしがらみだ」と思う人もいるかもしれませんが。でも、あなたが赤ちゃんだった頃、あなたへのケアを「面倒なしがらみ」と周囲の大人が拒否していたら、そもそもあなたはこの世に存在していません。つまり、あなたがここまで生き延びてきたのは、一人で暮らせなかった（経済的にも身体能力でも自立ができていない）あなたのことを、気にかけて、手を差し伸べてくれた人がいたからです。あなたの尊厳を大切にし、あなたが選んだり決めたりするニーズをあなたは支えてもらったからこそ、暮らせています。そういう意味で、生まれた瞬間から、あなたのニーズは、あなたと関係性のある大人が、義務として満たそうとしてきたからこそ、あなたは「いま・ここ」にいるのです。

（竹端寛『ケアしケアされ、生きていく』筑摩書房、二〇二三年より抜粋）

問一 文中の①⑥の語句の読み仮名を書き、②③④⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

① 右往左往

② ヨウリヨウ

③ エンリョ

④ ジシン

⑤ ゴウウ

⑥ 遭う

問二 文中空欄の（A）（B）には、それぞれどのような語句が入るか、文中より最もふさわしい漢字二字を抜き出して記入しなさい。

問三 下線部(1)「自己決定や自己選択の自立」とあるが、「自己決定や自己選択の自立」と、その前に書かれている「能力主義に親和的な自立」の違いについて、一〇〇字以内で説明しなさい。

問四 下線部(2)「『依存先を増やすこと』こそ自立」とあるが、これについての著者の考えを簡潔にまとめた上で、自立と依存の関係についてあなたの考えを二〇〇字以内で述べなさい。

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

公平とは

次に、社会保障制度にまつわる不公平感について考えてみましょう。

私には、社会保障制度をめぐる不公平感が、人びとのあいだに目に見えない^①シヨウヘキを形成しており、これを打破することが必要ではないかと思われます。

経済学では、公平と効率とのトレードオフということがいわれます。この場合、公平性を実現するために、所得再分配がおこなわれることになります。

また租税理論では、公平性は水平的公平（同じ経済力をもつ個人や家計は、同一額の税を負担するのが公平にかなうという考え方）⁽¹⁾と垂直的公平（異なった経済力をもつ個人や家計は、負担能力が高いほど税額が多くなるのが公平にかなうという考え方）という、二つの基準から説明されます。

世代間の不公平

これに対し、社会保障制度における公平性は、多くの場合、負担と給付との適正なバランスの問題としてとらえられています。その際、⁽²⁾超少子高齢社会、人口減少社会の到来を迎え、世代間の（不）公平が大きな争点となっている点が特徴的です。

この世代間不公平とは、日本の社会保障が高齢者中心型であったことに由来する現役・若年世代にとつての不公平感を意味しています。

たとえば、二〇一四年度において、社会保障給付費一・二兆一〇〇億円余のうち、年金、高齢者医療、老人福祉サービス、高齢年齢雇用継続にかかわる高齢者関係給付費が六七・九％を占めていました。七割近くもの社会保障給付費が、高齢者に向けられていたのです。安倍政権下で設置され、有識者委員により構成された社会保障制度改革国民会議が、二〇一三年にまとめた報告書において、現役世代は雇用、高齢者世代は社会保障という意味での年金、医療、介護中心の高齢者中心型「一九七〇年代モデル」から、年金、医療、介護の前提となる現役世代

の「雇用」、「子育て支援」、「低所得者・格差」、「住まい」の問題なども社会保障の課題としてとらえる全世代型「二十一世紀（二〇二五年）日本モデル」への転換を図ることとされたのも、こうした世代間の公平に対する配慮とみることができそうです。

当たり前のことですが、社会保障制度は、基本的には（A）の仕組みです。しかし、そのための財源を誰かが負担しなければなりません。この負担を、高齢者世代が現役世代や将来世代に過度につけ回すのは、世代間の公平を著しく毀損（きそん）することになり、社会保障を下支えする市民的な基盤をきわめて脆弱（ぜいじやく）なものにしかねないということは、容易に理解できるでしょう。そのためには、支える側としての現役世代と、支えられる側としての高齢者世代といった二分法的思考ではなく、誰もが支える側にも受け取る側にもなり得るという前提での制度設計や、誰もが痛みを分かち合いながらも納得できる制度改革が求められます。このことは、次に述べる世代内の公平との関係でも当てはまりません。

社会的弱者の側の不公平感

社会保障制度における公平性は、世代間のみならず世代内においても争点となってきました。この世代内の不公平も、二つの側面からとらえることが可能です。

第一に、子どもの貧困や非正規雇用などに象徴される、格差や貧困の拡大および固定化に起因する社会的、経済的な弱者の側の不公平感です。この点については、先に紹介した社会保障制度改革国民会議報告書が、これまでの年齢別負担から負担能力別負担への転換に言及しており、高齢者を一律負担減の対象とするのではなく、世代を問わず、また同世代のなかで負担能力に応じた負担を求めることが公平にかなうという見方を提示しています。たとえば、二〇一七年介護保険法改正により、一定以上の所得がある利用者の自己負担が、原則一割から三割へと引き上げられた改正は、この Кейフ^③に連なるものといえます。

最近、子どもの貧困との関連で、少しずつ社会的理解が広まりつつあるのを感じますが、大きな所得格差や、機会の不平等の背景には、個人の努力によってはいかんともしがたい社会構造的な要因や、生育した家庭環境の問題があることを否定できません。この本の依拠するリベラリズムの論客であり、著名な政治哲学者であるジョン・ロールズの言うところの「無知のヴェール」の下では、誰もが自分では選びようの

ないフグな環境におかれる可能性もあり得たと考えれば、将来的に貧困や生活困窮に至らしめる可能性の高い養育環境を、個人の責任ある^④いは自己責任で簡単に片づけるわけにはいけないと思われます。

中間層以上の不公平感

第二に、世代内の公平の問題を考えるにあたって意外に重要だと思われるのが、一定以上の所得がある中間層以上の現役世代（抛出者、納税者）が抱く不公平感です。

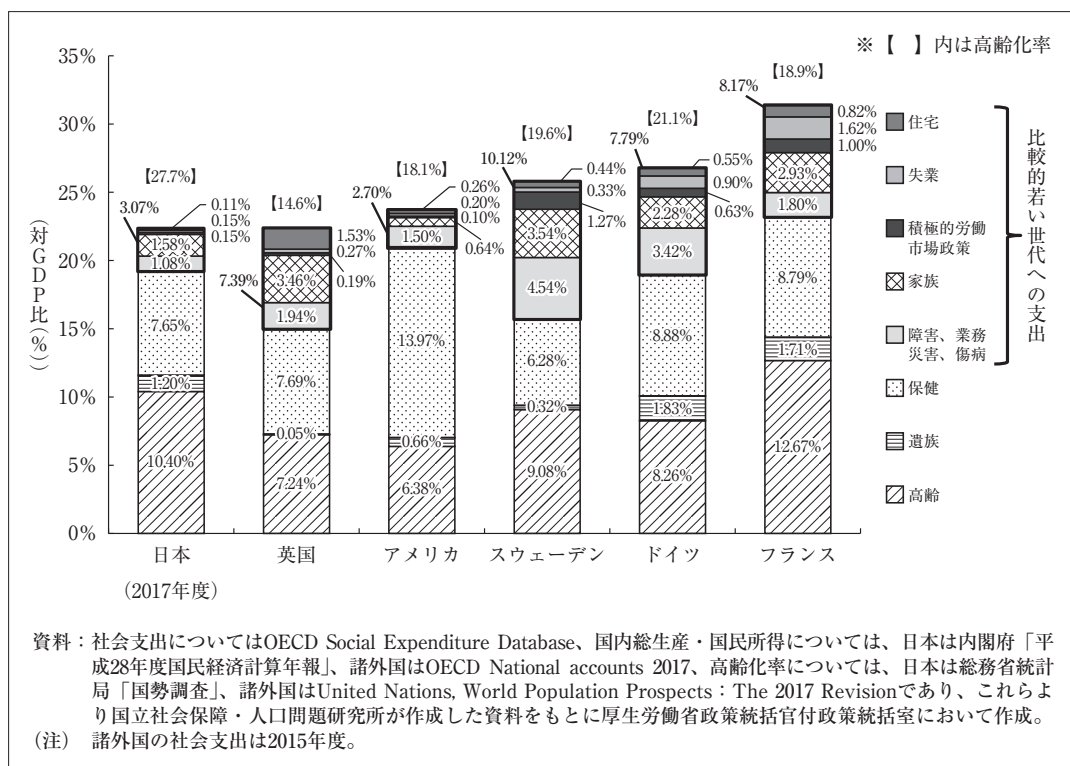
最近の社会保障制度改革では、これらの人びとは、たび重なる負担引き上げの対象となり続ける一方、給付面での恩恵を受けている実感を十分にもつことができていません。この点に着目して、救済に値する人への支援だけを再分配政策と決めつける「救済型の再分配」が分断をまねく旨を喝破する、財政学者である井出英策氏（慶應義塾大学教授）^⑤らの見解には、私も大いにうなずけるところがあります。

具体例を挙げると、二〇一四年改正により、健康保険などの被用者保険の各保険者から七五歳以上の高齢者が加入する後期高齢者医療制度に向けて、現役世代からの「仕送り」として拠出される後期高齢者支援金の負担の配分が変更されたことが挙げられます。

後期高齢者支援金は、現役世代が加入する医療保険の各保険者（健康保険、公務員共済組合などの被用者保険と国民健康保険）が被保険者から徴収する保険料によってまかなわれ、当初は、これらの各保険者が〇歳から七四歳までの加入者数に応じて負担することとしていました。

しかし、健康保険のうち中小・レイサイ企業被用者が加入する全国健康保険協会が運営する健康保険（協会健保）^⑥を財政的に支援するといふ趣旨で、被用者保険の保険者が負担する後期高齢者支援金の三分の一につき、被用者保険の総報酬にに応じて負担する措置（総報酬割）を、二〇一〇年に導入したのに続き、二〇一五年医療保険法改正により、総報酬割の割合を段階的に引き上げ、二〇一七年度以降、全面的に総報酬割へと移行しました。この改正により、一人あたりの報酬額が高く、大企業に勤務する（B）者が加入する健康保険組合（健保組合）の被保険者の保険料負担が重くなったのです。

図表 1-9-9 政策分野別社会支出の国際比較（令和2年度厚生労働白書）



後期高齢者支援金の重荷

二〇一九年度予算早期集計によると、健康保険組合全体の保険料収入八兆一三三億円に対し、後期高齢者支援金は一兆九八二億円と二四・四三%を占めるに至っています（健康保険組合連合会ホームページによる）。集めた保険料の約四分の一が、組合員ではない七五歳以上の後期高齢者への「仕送り」に充てられているのです。

（菊池馨実『社会保障再考―（地域）で支える』岩波新書、二〇一九年より抜粋）

問一 文中の②⑤の語句の読み仮名を書き、①③④⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

① ショウヘキ

② 脆弱

③ ケイフ

④ フグウ

⑤ 喝破

⑥ レイサイ

問二 文中空欄の（A）（B）には、それぞれどのような語句が入るか、文中より最もふさわしい漢字二字を抜き出して記入しなさい。

問三 傍線部(1)の「垂直的公平」に関連して、応能負担の原則がある。この原則に基づくと考えられる社会保障制度改革の例を、文中から六〇字以内で抜き出さない。

問四 傍線部(2)「超少子高齢社会、人口減少社会の到来を迎え、世代間の（不）公平が大きな争点となっている」とあるが、この状況下で特に現役・若者世代に不公平感が生じているのはなぜか。図表1-9-9をもとに他国に比べて日本の社会支出にどのような特徴があるのかを整理した上で、あなたの考えを二〇〇字以内で述べなさい。